

## 神奈川のお城めぐり2

12月号からの続き。2025年最初の投稿です。

### 4.小机城(こづくえ、横浜市)

2024.10/19は10月としては最も遅い夏日の日であった。今年の夏は世界と日本の気温の最高を記録した。そんな中、神奈川で3本の指に入る小机城を見に行った。

土曜日に朝早く8時15分の電車で横浜駅まで輪行した。目指す方角は日産スタジアム（横浜スタジアムと同じ）の方向です。今から20年前に香月子とサッカーの試合をよく見に行った。横浜線にそって走る。知らない施設、公園があり勉強になった。

中でも根岸公園のそばにあった神奈川県立武道館の存在を知った。弓道の大会があるらしく大勢の学生が袴を履いて集合していた。日本の武道は世界的に有名で人気があります。

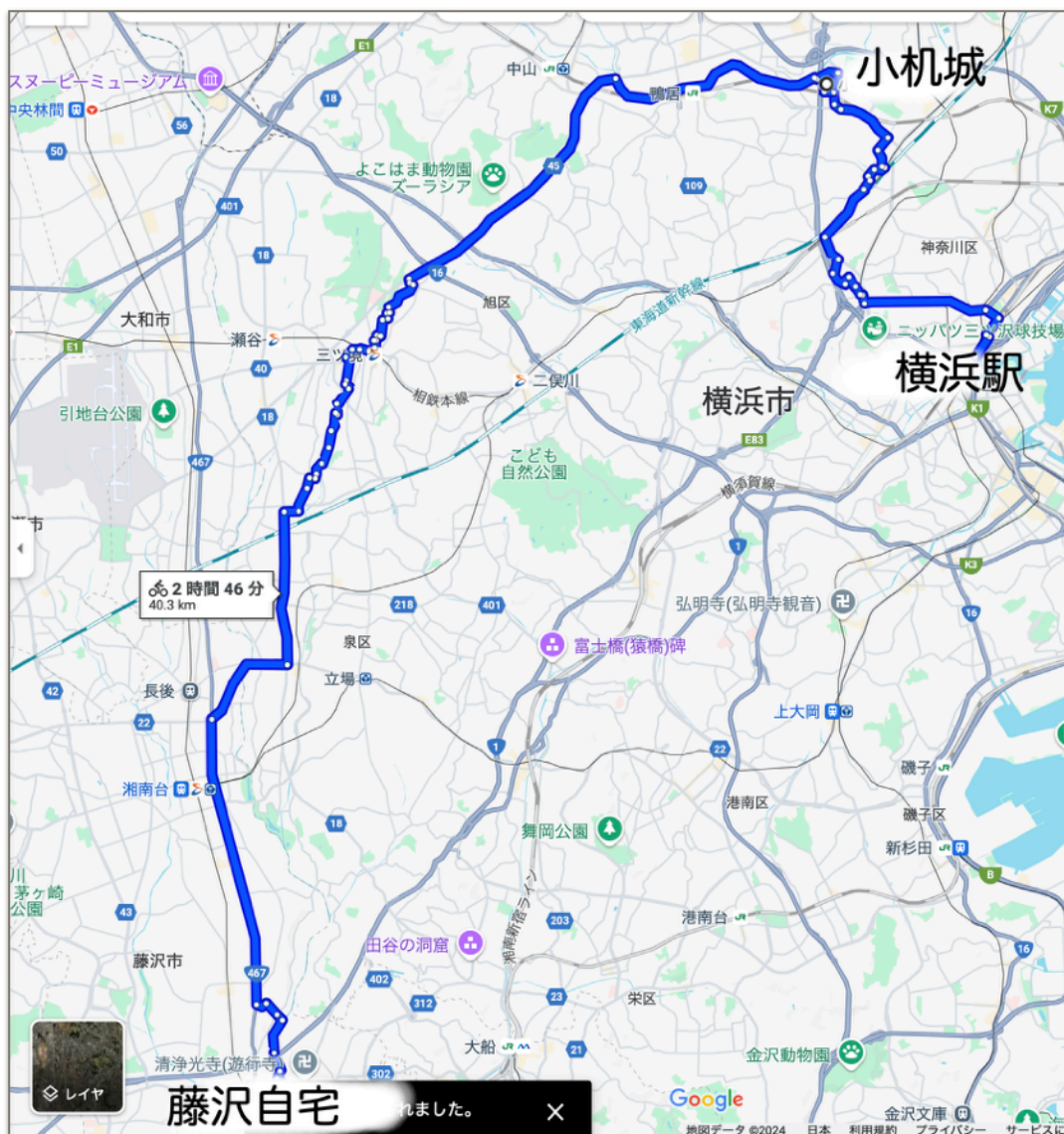


図4-1 小机城までの行程（自宅から41kmほど）

日産スタジアムの最寄駅が横浜線の小机駅です。駅から右手にスタジアム、左手に雑木林と竹林が生い茂った小高い丘が見える。あそこが小机城跡の市民公園（小机城址市民の森）らしい。案内板が少ないのでどこから入るのがウロウロし、地元民に教えてもらった。狭い民家の道から入り口に入り自転車を置き、徒歩で巡る。孟宗竹の竹林が見事です。小高い山道を登るとすぐに本丸の広場に到着した。地元のボランティアのおじさんが清掃活動をしていた。

相当に草刈りをしないと夏は雑草、特に葛が厄介、が伸び放題になる。ご苦労さまです。私も藤沢の新林公園のボラとして草刈り、ゴミ拾いを毎週しているから共感した。ゆっくり巡っても10分ぐらいで城跡の調査は終わった。この城の詳しい内容はネット検索すれば良い。

帰りは日産スタジアムから程近い鶴見川サイクリングロードを使ってみた。アップルマップを使っていると自転車に適する道路を案内する。時々、じゃり道や山の中の抜け道を案内して走行に苦労することがあるが、圧倒的に信号が少ない道をパイロットする。

東海道線で鶴見川の河口を渡ることがある。そこは河口に近いので街中を流れる水は濁っている。ここ横浜のアマゾンと呼ばれる緑区を流れる中流域の鶴見川は市民の憩いの場所として整備されている。水も透き通っている。河川には外来種のキバナコスモスとセイタカアワダチソウが咲いている。日本古来種のススキは肩身が狭く悲しい。青空とわずかな色差で遠くに蒼富士山も見える。11時過ぎに昼食として運動用の栄養ゼリーを食べて水分を補給した。水分、栄養とカロリーを同時に摂取できるので便利だ。

川を離れ県道45号線に入り、緑区三保町、瀬谷を抜けて大和市の境川サイクリングロードに合流した。ここまで来ればナビも終了、ホームグラウンドだ。11:45に自宅に到着し、シャワーを浴びて2時から整体マッサージに行った。

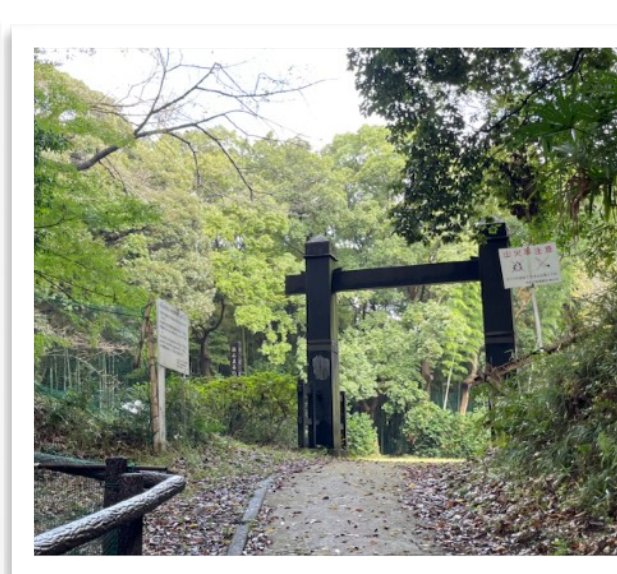


図4-2 小高い丘にある小机城 と 本丸跡

## ●歴史

### 戦国時代

小机城は、永享の乱（1438年 - 1439年）の頃に関東管領上杉氏によって築城されたとされるが、正確な築城年代は分かっていない。太田道灌に攻撃された事件もあった。

時は流れ1590年（天正18年）の豊臣秀吉による小田原征伐の際には、無傷のまま落城した。その後、徳川家康の関東入府のときに廃城とされた。(Wikipedia)

## ●アウトライン

別名 飯田城、根古屋城

城郭構造 連郭式平山城

天守構造 なし

築城主 上杉氏か

築城年 永享年間（15世紀前半）か

主な改修者 長尾氏、後北条氏

主な城主 上杉氏、長尾氏、笠原氏、後北条氏

廃城年 1478年（文明10年）、1590年（天正18年）

遺構 空堀、土塁、土橋、堀切、櫓台、帯郭(Wikipedia)

## 5.大庭城(藤沢市)平家側の大庭氏の家

藤沢駅の北西5.2kmのところ到大庭地区がある。大庭地区は面積も広く、その中心に大庭城址公園がある。桜の名所で、春には大勢のお花見客が訪れる。藤沢駅から西北に自転車で20分、引地川の川底から立ち上がる高台の上にある。山城ではないから自転車でも楽に登れる。

お城らしい遺跡は殆どなく、広い原っぱがある桜公園の景色。公園の周りの立木によって眺望も冴えない。もともと天守閣は無く、高台の上の広場に領主の住居があった程度だった。

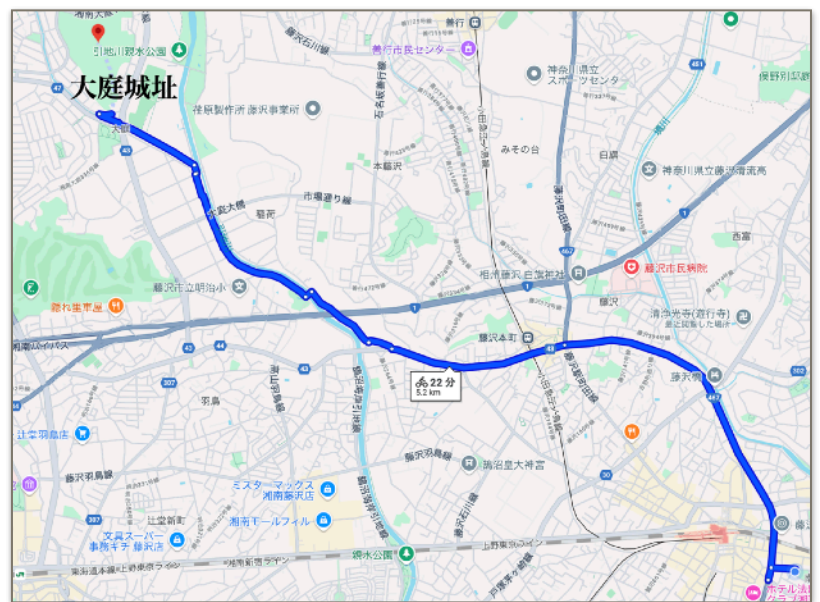


図5-1 大庭城までの行程(自宅から5.5km)

大庭城の歴史を振り返ります。

平安時代の末期、この地は大庭御厨と呼ばれる伊勢神宮の荘園であった。かなり古いです。ここから面白い歴史が始まります。NHKの大河ドラマの「鎌倉殿の13人」にもでてくる。神奈川県にあるからてっきり源氏側の人と思ったら、源氏→平家側へ寝返った人でした。

大庭 景親（おおば かげちか）は、平安時代末期の相模国の武将。平良文の末裔である鎌倉景正の流れを汲む大庭氏の一族（景親は景正の曾孫にあたる）。

平治の乱後に平家の忠実な家人になり、治承4年（1180年）に義朝の遺児・源頼朝が挙兵すると平家方の武士を率いて石橋山の戦いで頼朝を撃破した。しかし、安房国へ逃れた頼朝が再挙して多くの東国武士に迎えられて鎌倉へ入ると抗する術を失う。頼朝が富士川の戦いで平氏を破った後に降伏し、処刑された。



図5-2 大庭城址の高台 と 館跡

## 6.玉縄城(鎌倉市)

この城は自転車で10分あまり自宅から一番近い。大船駅の西のフラクァーセンターのトンネルを抜けた場所にある。右手に小高い丘があり、緑が豊かだ。現在、本丸は清泉女学院の高校の敷地だから立ち入り禁止である。香月子が通った学校です。校庭の周りに史跡が点在し、鎌倉市が作った解説の看板がある。室町時代に築城したので鎌倉幕府との関係はない。

大船駅から距離は近いが丘陵地なので自転車だと坂がキツイ。今はマンションだらけ。山を崩して住宅地になっている。北条早雲が見たらビックルするに違いない。北条家だから至る所に3つの三角形の家紋がある。

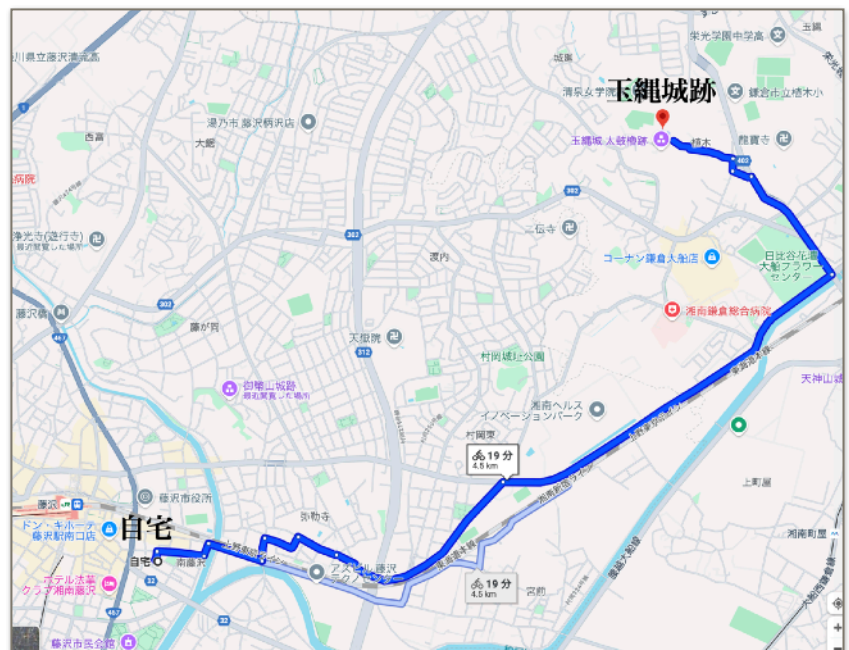


図6-1 玉縄城までの行程 (5km)

## ●歴史

”城の外堀が柏尾川と直結し、相模湾まで舟を繰り出すことが可能だった関係で水軍などを統括する重要拠点となった。さらに鎌倉に近いことから鎌倉の防衛という面があった。”(ウィキペディア (Wikipedia))

建設時の室町時代は柏尾川から船で海まで行けた。今の風景からは想像できない。現在でも柏尾川に沿ってある大船駅の隣の戸塚駅周辺は大雨で浸水する。室町時代、戸塚、大船、藤沢を流れる柏尾川はかなり川幅があったに違いない。

徳川氏時代（玉縄陣屋）

徳川政権下においても玉縄城は重要視され、家康側近の本多正信・水野忠守の居城となったが、慶長20年（1615年）の一国一城令を受けて元和5年（1619年）に廃城となった。(Wikipedia)

## ●アウトライン

別名 甘縄城

城郭構造 平山城

天守構造 無し（諏訪壇をそれに代わる物とする考えも有る）

築城主 北条早雲

築城年 1512年（永正9年、室町時代）

主な改修者 後北条氏

主な城主 北条氏時、北条綱成、北条氏繁、北条氏勝、本多正信

廃城年 1619年（元和5年）、玉縄陣屋廃止は1703年（元禄16年）(Wikipedia)



図6-2 玉縄城天守閣は清泉女学院の中にあるので立ち入り禁止、右は復元した七曲坂

## 7.今月のなごみ 「安部工房展」

11月に横浜の神奈川近代文学館で行っていた安部工房生誕100周年の展示会に行った。自宅から往復自転車で50km。ナビをたよりに巨大都市横浜の沿岸部を走った。文学館は港が見える丘公園にある。

安部工房の『砂の女』を読んだのが18歳の高専生だった頃。とても気に入り何冊か彼の作品を読んだ。展示会に行くと生原稿がある。角ばった大きな字だった。人柄が想像できる。展示会に行くと作者とその家族や交友関係がわかる。文学仲間達が彼のあだ名（「あべこべ」）をつけた。そんなパネルがあった。

今、電子ブックで『砂の女』を読んでいます。図書館で借りようと思ったが、どこも貸出中でした。誰も考えることは同じです。

\*\*\*\*\*

神奈川近代文学館のホームページから引用

今年生誕100年を迎えた安部公房（1924-1993）。その創作活動は、学生時代の詩作から出発し、『壁』『砂の女』などの小説や「友達」などの戯曲、写真、さらに演劇グループ・安部公房スタジオによる総合芸術の追究と多岐にわたりました。自明のはずの名前や身体、居場所が損なわれることで自己が揺らぐさまや、従来の規範が突如として転倒する世界を描いた独特の作品は、いまでも国境を越え多くの読者を得ています。本展は初公開・初展示を含む数々の資料により、時代の先端をとらえ続けた表現者・安部公房の全貌に迫るとともに、21世紀の今日において安部作品のテーマが持つ意味を問い直します。

